

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870700800		
法人名	有限会社 日本健康管理システム		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	兵庫県神戸市須磨区多井畑南町4-1		
自己評価作成日	令和1年5月13日	評価結果市町村受理日	令和1年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和元年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

奥須磨公園をはじめ自然豊かな住宅地の中にある。施設隣には小さな公園があり、春には満開の桜を見ることができ入居者様も喜ばれている。近くにパン屋さんとコンビニがあり買い物をしたりパン屋さんのテラスで食べたりしている。施設の中は新しくきれいに整備され明るくアットホームな雰囲気開放感を感じられる。食事は温かい味噌汁を提供しほとんどがスタッフ手作りの料理を提供している。朝のリハビリ体操、おやつ前にラジオ体操を健康維持のために毎日の日課として行っている。医療連携体制が整っており、緊急時にも看護師、主治医の協力が得られ安心して生活して頂けるよう支援している。訪問歯科診療を入居者様に受けて頂いており日頃から口腔ケアに力を入れ誤嚥性肺炎などの疾病の予防に努めている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・昨年7月より前職の法人施設看護師、CMより当施設管理者に赴任し、運営規程中4つの運営方針を集約した「ゆっくり・一緒に・楽しく」の実現を目指し、ヒヤリハットの提出件数増による職員意識向上等にリーダーシップを発揮している。
【工夫点】・事務所内でヒヤリハット等リアルタイムで記載報告し易い工夫をして職員への重要性認識を高めている。・車椅子の方も一対一の対応で短時間でも戸外に出る機会を作っている。・24時間トイレ排泄可能にするため、一人ひとりのサインを全職員で把握しさりげない支援を実践している。施設特有の生活の匂い予防に部屋の掃除や換気に留意した取組工夫を実践し家族に喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[令和元年度グループホームたんぽぽ]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲げ、ゆっくり、一緒に、楽しく、の理念のもと地域の方との交流を増していくようなケアの実践に努めている。	玄関内及び各フロア掲示箇所に「ゆっくり、一緒に、楽しく」の事業所理念を掲げ日々利用者支援実践での共有を図り、また運営方針の一つでもある地域との交流増へのケア実践を進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧等で地域の情報を共有している。運営推進会議、地域の催し、公園の清掃活動に利用者様も参加している。	自治会会員への地域活動等回覧情報より夏祭り、もちつき大会、近隣公園の月1回の清掃活動には利用者も参加し地域の一員としての日常的な交流を実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議及び地域の方の見学・来訪の時などには説明の時間を取り、相談を受けることがある。ワークキャンプ、トライやるウィークを受け入れ時には、認知症の方への理解や対応方法を経験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や話し合いの内容は、昼礼等で職員へ伝達し周知している。玄関に議事録を置き何時でも閲覧できるようにしている。	利用者、家族、民生委員、あんすこセンター、法人他GH管理者等参加のもと定例報告(含事故・ヒヤリハット)と話し合いを活発に行っている。ヒヤリハット数は増加傾向にあり職員の関心度増が伺える。議事録は玄関内に置き閲覧可能としている。	事故・ヒヤリハットの件数推移等見える化への工夫により更なる発生防止への活動が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市及び区の担当者、地域包括支援センターと連絡をとり、協力関係を築く努力をしている。特に保護課とは生活保護受給の利用者様が多いことから日常的に連絡を取り合っている。	市区及び地域包括担当者と日頃からの連絡や利用者特性より保護課担当者とは日常的な連絡をしている。	連絡時を活用し、ケアサービス取組みの効果や改善例等積極的に現場情報提供への試み実施が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は開錠し見守りをしている。年間研修の必須事項とし、全職員が受講し理解して業務に取り組んでいる。	市指導による年2回の研修計画にもとづく全職員参加を推進し、正しく理解へのレポート提出を実践し、玄関は日中開錠も含め、身体拘束をしないケアに取り組み3ヶ月1回開催の身体拘束廃止委員会と連携し防止に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	組織内の研修は職員全員が受講し理解した上で業務に当たっている。報道などの事例検討を行っている。日々の言葉かけや介護についても意識を高めるように指導している。	年2回の研修計画にもとづく全職員参加を推進し、正しく理解へのレポート提出及び新聞等事例を基に話し合いを進め日々の言葉かけ等気付いた時点での指導等意識を高め発生防止に努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は組織内外の研修にて学んでいる。入居前や入居後においても必要に応じてご本人が制度を活用できるように支援している。	管理者、職員は組織内外研修で学ぶ仕組みがあり学びを得ている。3月迄成年後見対象利用者がいたが他施設に移り現在はいない。	社協等関連のパンフレット等活用し、必要時対応への一助となる工夫推進が期待される。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前段階での、ご本人・家族との面談で十分に話し合い、質問や疑問に答えており理解や納得を得ている。介護保険法の改定に伴い料金の変更についても説明を行い承諾を頂いている。	契約締結、解約又は改訂時には、利用者、家族等の料金、重度化、看取り等関心情報を聞き取り後、所定の資料にもとづく説明を行い理解・納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付にご意見箱を設置している。家族面談を行い意見を聞く機会を設け、運営に反映させるよう努めている。運営推進会議に、利用者様、ご家族様に参加して頂き意見を伺っている。	運営推進会議参加や受付設置の意見箱、訪問時家族面談等意見を聞く機会を設け、そこからの意見を反映する仕組みを整備し、個人TVの音がうるさい苦情等家族との話し合い解決への実践等に努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や昼礼等で意見や提案を聞く機会を設けている。職員の意見を取り入れ他職員に周知している。職員の意見や提案を聴くために定期的に面談を行っている。	昼礼等で職員意見や提案を各施設所長参加の代表者主催の会議で報告する仕組みがあり、昼間時数内に利用者外出発見課題対応相談等や定期的な面談で職員意見等の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回所長会議で代表者への報告する機会を設けており、各自が前向きに働けるよう努められている。所長会議以外にも、全般的に相談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の様々な研修を受講できるように、シフト調整をしながら積極的な参加を促している。ケアの質、力量不足が見られた場合、その都度指導を行い知識、技術を身に付けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などで交流し、他施設の状況を知り、情報交換により刺激を受け、ケアの向上に活かすよう努めている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の習慣や嗜好などを把握し、入居時にはご本人やご家族からのお話を時間をかけてじっくりと聞き、不安が解消されるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族の不安な気持ちを受け止め、疑問、要望などを伺い、納得や理解が得られるよう努めている。ご家族の面会を通じ、ご本人の状況を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご本人やご家族には他のサービス利用も含めて説明し、ニーズがどこを求められているのかを見極める様に努めている。段階的にニーズの見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくり、一緒に、楽しくの理念にもとづき、アットホームな雰囲気でご過ごして頂けるように、お互いに支え合う関係を築き、利用者様を深く知るよう努力している。食事の時間は同じテーブルで食事をとるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで近況報告をおこなっている他、面会、外出、外泊、手紙の交換を支援し、ご家族と職員が共に利用者様を支える関係を大切にしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交通の便が悪いため知人などの面会が少なく馴染みの関係が途切れつつあるが、関係が途切れないような支援を行いたい。	これまで大切に培ってきた知人や友人との関係性を断ち切らないよう今までの関係性を把握し継続的な支援ができるように検討している。日々の暮らしの出来事や気づき等手紙をご自身で書いてもらうなど職員は想いに寄り添い、より良い関係性継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などの日課やレクでは利用者様同士が協力しながら関わり合えるよう支援している。相性にも配慮し、上手く関わりが出来るよう、座席などにも気配りしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じ、ご家族や退去先の関係者と連携を取りながら経過をフォローしていきたいと思っているが十分とは言えない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に添えるように、よくお話を伺っている。内容によって面談を行い話を伺っている。意思疎通の難しい方については表情等によりくみとるように努めている。	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている言葉や表情などからその真意を推し量ったり、そのように暮らすのが最良なのか家族を交えて検討している。暮らしの希望や買い物など出来る限りその日に実現できるよう努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より、情報収集に努めているが、本人との会話の中で知るように努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で情報等を収集し、申し送りの中で職員が共有している。ご本人の出来る力を活かせることが無いサービス担当者会議で意見交換している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を踏まえ、ミーティングやカンファレンスで意見やアイデアを出し、モニタリングを行い主治医など関係者とも話し合い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	介護計画は毎月モニタリングを行い本人、家族の要望や変化に応じて見直している。担当制にしているので日頃の関わりの中で、想いや意見を聞き反映させるようにしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に変化があれば、連絡ノートや申し送りで情報を共有し実践や介護計画の見直しに活用している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状態や状況に応じ、求められる事には可能な限り対応するように努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を把握し、行事に参加できるように努めている。近所のパン屋やコンビニでの買い物が入居者様の楽しみの一つとなっている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人及びご家族の望まれる主治医を決めている。専門医への受診や訪問診療受診の支援を行っている。眼科、週1回の歯科往診も行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人が今まで通う病院へ受診することができる。週1回の口腔ケアや眼科の往診も行われ、24時間適切な医療を受ける体制が整っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間の医療連携体制を整えており、常に連絡が取れる体制をとっている。定期的な看護師の訪問があり、情報提供や相談を行っている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になれば、病院関係者と情報交換し、家族と情報交換を行う。入院先に面会に行くように努めている。退院のめどがつけば速やかに受け入れる体制は出来ている。	入院によるダメージを極力防ぐために医療機関に対してその日のうちに迅速に情報を提供している。本人への支援方法や入院経緯等細かな情報を提供している。病院関係者との連携強化に向け入院中から回復状況や相談など面会時に行い速やかな退院支援に結び付けている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後早い段階から重度化した場合や終末期のあり方について、主治医を交え、ご本人、ご家族との話し合いの場を設け、方針を共有している。また、方針の見直しや確認も必要に応じて行っている。	重度化した場合や終末期の支援のあり方について意思確認書を作成し同意いただいている。事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。本人の意向を踏まえ医師、職員が連携をとり、随時意思確認しながら安心して納得のいく最期を迎えられるよう体制を整備している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急時の対応マニュアル、法人内外の研修で学び、看護師や主治医にアドバイスを求めて応急手当の実践力を身に付けるよう努めているが、すべての職員に対し十分に訓練ができているとは言えない。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼間及び夜間の消防避難訓練をおこなっている他、災害時の避難誘導も行っている。運営推進会議を通して地域の方の参加を呼びかけているが参加にまで至っていない。	運営規程に掲げる非常災害時の対策としてたんぼ消防計画にもとづく年2回夜間、昼間を想定した避難訓練を実施し利用者避難の方法を全職員共有化を図っているが近隣地域の方の参加までは至っていない。	計画実施日時前案内と共に、例えば消化器実用テストや当施設の利用者別非常時用サフサツ準備等地域の方が参加興味を得られる工夫等による参加実現展開が期待される。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や職業倫理の研修を通し、人格を尊重した支援を学ぶと共に、日頃一人ひとりの自尊心を大切に、入浴、排泄に関してはプライバシーを損ねない支援に努めている。	年長者としての敬意を払い、職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的な確認と改善に向け研修を通し職員全体で取り組んでいる。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のご自身の希望や思いを表しやすいよう、分かりやすい言葉かけや対応を行い自己決定しやすい様心掛けている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にしているが、入浴や外出など職員の都合で希望に添って支援できない時もある。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整容をおこなっている。衣類はそれぞれ季節に合ったものをご本人に選んで着て頂いている。もっとおしゃれに関心を持って頂けるように支援したい。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のできることに応じ、もやしのひげ根取りや食器拭き、テーブル拭きなど役割を持っていただけるよう支援している。暖かいお味噌汁を提供している。	利用者個々の力を活かしながら、見守りや支えがあれば力を発揮することができる。職員と一諸に調理や味見、後片付け等を行っている。重箱のお弁当を持参し近くの公園でお花見を楽しむなど食事を大切な活動のひとつにしている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量はチェック表にて把握している。一人ひとりの状態に合わせ、ミキサー食、刻み食、トロミ剤使用などを支援している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア支援に加え、週に一度の歯科往診があり、口腔内及び義歯の清掃がなされている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンを読み取り失禁に至る前の誘導するタイミングの工夫など行い排泄の失敗が減らすよう努めている。	自尊心に配慮し、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、介助をしている。排泄チェック表を使用し、24時間トイレでの排泄を可能にするため一人ひとりのサインを全職員で把握しさりげない支援の工夫を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認は行えている。一定のリズムで排便があるよう下剤の調整をしている。水分・食事摂取量も把握しており、水分量が少ない方は嗜好品を提供している。			
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務体制で時間が限られている。午後から入浴となっているが午前中にも入浴できるよう対応している。しかし、全ての方の希望に添えているとはいえない。	週2回入浴したい日、時間に合わせ調整し、本人から一人ひとりの習慣や好みをよく聴いて、相談しながら個別の入浴支援を行っている。入浴を拒む方には、言葉かけや対応を工夫し、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースを大切に、居室で過ごされる際は訪室をし安否確認をしている。室温調整や天気の良い日には、布団干しをこまめに行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師、看護師の協力を得ながら処方されている薬を理解するよう努めている。服薬支援は事故の無い様にし症状の変化があれば主治医へ報告している。薬剤情報は各ユニットにおき常に確認できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをして頂いた際はねぎらいの言葉をかけそれぞれに応じた役割を支援している。歌をうたって頂いたり、散歩、買い物など一人ひとりにあった楽しみ事、気分転換が出来るように支援している。			
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と外出される方もいる。希望がある場合は買い物や散歩を行い、行事で花見も行っている。	日常的に外出できるよう職員と一緒にコンビニへの買い物や近隣神社への散歩など出かけている。車椅子の方も一対一の対応で短時間でも戸外に出る機会を作っている。屋内だけではなく玄関先の花壇の水やり、ベンチに腰掛ける等戸外で生き生きと過ごせるよう工夫している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は家族様との取り決めで金銭管理を行っている。職員と買い物に行ったり、ホーム内の自販機で自由に購入できるように支援をしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から手紙をいただいた時はすぐ手渡してみたい。ご家族様から荷物が届いた時は電話をかけてご本人と話をして頂いている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとの装飾を行い季節感を楽しんで頂いている。利用者様のレクリエーション作品も飾り、楽しい空間であるよう工夫している。施設特有の匂いがしないよう換気に努めている。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないよう配慮し、行事ごとの装飾やレクリエーション作品等飾り楽しい空間である工夫をしている。施設特有の生活の匂い予防に部屋の掃除や換気に留意した取組を行い家族にも喜ばれている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の関係性を考慮し居心地の良い空間となるよう席など工夫している。その時々状況により自由に座って頂いている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が馴染みのある空間で生活して頂く様に入居時には馴染みの筆筒、衣類、仏壇を持ってきて頂いている。	居室は居心地良く過ごせるよう、入居時に本人家族と相談し、馴染みのある使い慣れた筆筒、衣類、仏壇、写真等を持ち込み、また、匂い排除への掃除等の配慮をしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には分かり易い表示をつけており、廊下の手すりを使用しながらの自力歩行を支援している。一人ひとりの出来ること、分かることを把握し、それらを活かすよう努めている。		